

和歌山縣報

第九百四十三號

明治四十三年一月十五日

○縣令

○和歌山縣令第四號

明治三十六年^{十月}縣令第八十四號有給縣吏員設置規程中左ノ通改正シ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川上親晴

第一條中蠶病豫防吏員ノ下ニ「統計吏員會計吏員」ヲ加テ

第三條第三項ノ次ヘ左ノ一項ヲ加フ

統計吏員會計吏員ハ定員ヲ設ケス俸給豫算額内ニ於テ之ヲ置ク

第四條中内務部第五課ノ下ヘ「統計吏員ハ知事官房ニ會計吏員ハ内務部第四課」ヲ插入ス
別表縣吏員俸給表中檢稅吏員ノ次ニ「統計吏員、會計吏員」ヲ加フ

○和歌山縣令第五號

明治四十年^{二月}縣令第十號和歌山縣吏員退隱料規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ施行ス

和歌山縣報

第九百四十三號

明治四十三年一月十五日

(明治三十三年五月八日第三種郵便物認可)

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川上親晴

和歌山縣吏員退隱料規則中改正

第十一條ノ一 退隱料ヲ受クル者ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一 六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 在職中ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 帝國臣民ノ分限ヲ失ヒタルトキ

第十一條ノ二 退隱料ヲ受クル者ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ退隱料ノ支給ヲ停止ス

一 官職ニ就キ又ハ府縣ノ吏員職員ト爲リ給料ヲ受クルトキハ其ノ間

二 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定

シタルトキヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテノ間

第十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リ又ハ官吏、吏員、職員、市町村長、助役、收入役、市右譽職

參事會員ト爲リタルノ故ヲ以テ退職シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失ハス

第十二條ノ二 吏員他ノ官職ニ轉シタルトキハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者ト看做ス

第十九條 本令施行以前ニ於ケル吏員ノ在職年數ハ明治三十二年七月一日以後ノ分ヲ計算ス

○和歌山縣令第六號

明治四十年二月縣令第十一號和歌山縣吏員退職給與金規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ施行ス

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川 上 親 晴

和歌山縣吏員退職給與金規則中改正

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ退職料ヲ受クヘキ者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 退職給與金ノ支給ニ關シテハ和歌山縣吏員退職料規則第三條第十一條ノ一第十二條及第

十二條ノ二ノ規定ヲ準用ス

○和歌山縣令第七號

明治四十年二月縣令第十二號和歌山縣吏員遺族扶助料規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ施行ス

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川 上 親 晴

和歌山縣吏員遺族扶助料規則中改正

第五條 在職年數ノ算定ハ和歌山縣吏員退職料規則ノ例ニ依ル

第五條ヲ第六條ニ改メ第六條以下順次繰下ク

○和歌山縣令第八號

明治三十八年三月和歌山縣令第八號和歌山縣立中學校規則左ノ通改正ス

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川上親晴

和歌山縣立中學校規則

第一章 學科目、程度教授時數、補習科
第一條 本科ノ學科目及其ノ程度左ノ如シ

學 科 目	年	修 身		
		國語及漢文	英語	歷史地理
第一學年	人倫道德ノ要領	講讀、作文 文法、習字	講讀、綴字、書取 會話、習字	日本歷史 日本地理
第二學年	同上	同上	講讀、作文 會話、書取	日本歷史 外國地理
第三學年	同上	同上	講讀、作文、文法 會話、書取	東洋歷史 外國地理
第四學年	同上	講讀、作文、文法	同上	西洋歷史 外國地理
第五學年	同上 倫理學ノ一班	同 國文學史	同上	日本及西洋歷史 地理

數	學	算術	算術	代數	代數	幾何	幾何
博	物	礦物	植物	生理及衛生	動物	動物	•
物理及化學					物理化學	物理化學	
法制及經濟						法制及經濟	
圖	畫	自在畫	自在畫	自在畫	自在畫		
唱	歌	普通樂譜法	同上	同上			
躰	操	普通躰操 兵式躰操	同上	同上	同上	同上	同上

法制及經濟、唱歌ハ之ヲ欠クコトヲ得

第二條 法制及經濟及ハ唱歌ヲ欠キタルトキハ學長ニ於テ其ノ每週教授時數ヲ他ノ學科目ニ配當スヘシ

中學校令施行規則第十四條第四項乃至第六項ニ依ル教授時數ノ增加ハ學校長之ヲ定ム

第三條 補習科ハ學校設備ノ狀況ニヨリ之ヲ置ク

補習科ノ修業期間ハ一箇年以内トシ知事ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

補習科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、英語、數學、物理及化學、体操トシ其ノ他ノ科目ヲ隨意科目トス

補習科ノ每週教授時數ハ十六時以上二十八時以下ノ範圍内ニ於テ學校長之ヲ定ム

第二章 休業

第四條 休業日左ノ如シ但シ土地ノ情況ニ依リ學校長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

日曜日

祝日

大祭日

學校設立紀念日

夏期休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬期休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

學年ノ終始各五日間ハ教授ヲ欠クコトヲ得

第三章 入學、退學及懲戒

第五條 入學セシムヘキ生徒ノ員數及出願期日等ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第六條 志願者ハ入學願書(第一號書式)ニ履歷書(第二號書式)及戶籍謄本ヲ添ヘ學校長ニ差出ス

尋常小學校又ハ高等小學校ヲ卒業セバ若ハ高等小學校在學中ノ者ニ在リテハ前項ノ外卒業又ハ在學セル當該學校長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第七條 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許ス

第八條 補習科入學志願者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ヲ超過スルトキハ試験ニ依リ入學者ヲ選拔ス

第九條 中學校令施行規則第四十二條第三項ノ試験ハ國語算術ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ前條ノ試験ハ國語及漢文、數學、英語ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

第十條 入學ヲ許可セラレタル者ハ保證人正副二名ヲ定メ誓約書(第三號書式)ヲ學校長ニ差出スヘシ

第十一條 正保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ生徒ノ父兄若ハ他ノ親族、副保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ學校所在地ニ住居シ一戸ヲ構フル者タルヲ要ス

第十二條 學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

保證人住所氏名ヲ變更セタルトキハ遲滞ナク其ノ旨學校長ニ届出スヘシ

保證人死亡シ若ハ其ノ資格ヲ失シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ誓約書(第三號書式)ヲ差出スヘシ

第十三條 生徒ノ住所氏名其ノ他身上ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨保證人ヨリ届出ツヘシ

第十四條

生徒疾病其ノ他不得止事故ニ依リ退學又ハ轉學セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人ヨリ願書ヲ學校長ニ差出スヘシ

第十五條

學校長ハ授業料ノ納付ヲ怠ル生徒ニ對シ退學ヲ命スルコトヲ得

第十六條

生徒ニシテ校則命令ニ違背シ若ハ品行不良等其ノ本分ヲ誤ル者アルトキハ學校長ニ於テ懲戒ヲ加フ

懲戒書 謹慎及停學ノ二種トス

第四章 學業成績調査及卒業

第十七條

生徒ノ學業成績ヲ分テテ學期成績及學年成績トス

第十八條

各學科目ノ成績ハ百点ヲ以テ滿点トス

第十九條

各學科目ノ學年成績五十点以上其ノ平均六十点以上ヲ及第トス但シ平均六十点以上ニシテ二科目以內五十点未滿四十点以上ノ者アルトキハ學校長ノ見込ニ依リ及第トナスコトヲ得

第二十條

卒業ノ認定ハ各學年ノ成績ヲ平均シタルモノニ依ル

第二十一條

卒業證書ノ書式左ノ如シ

卒業證書

校印

道廳府縣族籍

氏

名

右ハ當校本科ノ課程ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス

生年月日

年月日

和歌山縣立何中學校長 位勳爵 氏 名印

番號

第二十二條 補習科ヲ修了セリト認メタル者ニ授與スヘキ修業證書ノ書式左ノ如シ

修業證書

校印

道廳府縣族籍

氏

名

右ハ當校補習科ノ課程ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス

生年月日

年月日

和歌山縣立何中學校長 位勳爵 氏 名印

番號

第二十三條 學業成績調査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第五章 授業料

第二十四條 授業料ハ一箇月金壹圓七拾錢トス但シ德義中學校在學ノ舊和歌山藩士族子弟ノ授業

料ハ半額トス

授業料ノ納期ハ毎月五日限リトス但シ一月四月ハ其ノ月十二日マテトス

第二十五條 學校ノ休業全月ニ及フトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徴收セス

第二十六條 新ニ入學セシ生徒其ノ月十六日以後ニ係ルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ半減ス。但シ本縣立中學校間ニ於テ轉學スル者ノ其ノ月ノ授業料ハ轉學後ノ學校ニ於テハ之ヲ徵收セス

第六章 寄宿舍及生徒取締

第二十七條 生徒ハ自宅ヨリ通學スル者ノ外總テ寄宿舍ニ入ラシム。但シ事宜ニヨリ他ニ寄宿セシムルコトアルヘシ

第二十八條 生徒ニハ所定ノ制服ヲ着用セシム

制服ニ關スル規程ハ學校長之ヲ定ム

第二十九條 寄宿舍ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第七章 附則

本則ハ發令ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號書式)

(用紙美濃紙)

入學願

原籍地
 現住所
 族籍 何某何男、弟又ハ戶主
 氏 名
 生年月日

右ノ者今故御校本科(補習科)へ入學爲致度候間御許可被下度同人履歷及戶籍謄本相添此段相願候

也

年月日

和歌山縣立何中學校長宛

(第一號書式)

(用紙美濃紙)

履歷書

父兄 又ハ親戚

職業

氏

名印

族籍

氏

名

生年月日

學業

一尋常小學校

何年何月何尋常小學校ニ入り
何年何月卒業

一高等小學校

何年何月何高等小學校ニ入り
何年何月何學年修業又ハ卒業

一其ノ他ノ學校

何年何月ヨリ何年何月迄
何所ニ於テ何々修業等

賞罰

一何年何月何日何々ノ廉ニ依リ何ノ賞或ハ罰ヲ受ク

右ノ通相違無之候也

年月日

(第三號書式)

誓約書

(用紙美濃紙)

消印
收入印紙
三錢貼用

右ノ者今般御校ニ入學許可相成候ニ付テハ御校規則ヲ確守シ勤學セシムヘキハ勿論猥リニ退學等
爲數間敷且本人ニ關スル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申候仍テ證書差出候也
年月日

右

氏 名 印

原籍地

現住所

族籍 何某何男、弟又ハ戸主

氏 名 印

生年月日

原籍地

現住所

職業

正保證人

氏 名 印

和歌縣立何中學校長宛

原籍地

現住所

職業

副保證人

氏

名印

○告示

○和歌山縣告示第十二號

明治四十年^{二月}告示第五十一號縣吏員退隱科退職給與金遺族扶助料規則ノ給與ヲ受クル吏員ノ細則
中吏員細別蠶病豫防吏員ノ次へ左ノ通追加ス

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川上 親 晴

統計吏員

會計吏員

警察書記

○和歌山縣告示第十三號

明治四十三年一月本縣告示第七號林業講習會規程ニ依リ左記ノ通林業講習會ヲ開設ス

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川上親晴

開設期日及期間

明治四十三年一月二十日ヨリ二十六日迄

全場所

東牟婁郡色川村

○和歌山縣告示第十四號

左記ノ者ニ對シ小學校教員無試驗檢定ニ據リ頭書ノ免許狀ヲ授與シタリ

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川上親晴

記

尋常小學校本科正教員

和歌山縣士族 谷田 愛

明治二十四年七月十五日生

全

全 平民 裏地 實一

明治十五年五月二十七日生

小學校專科戒正教員

愛媛縣平民 後藤 ヲッ

明治二十一年二月二十七日生

○和歌山縣告示第十五號

明治四十三年二月十五日ヨリ伊都郡立尋常小學校准教員養成所卒業生ニ對シ尋常小學校准教員試驗檢定ヲ施行ス檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ承知シ來二月五日限當廳ニ到着スヘキ豫定ヲ

以テ成規ノ願書ヲ差出スヘシ

明治四十三年一月十五日

和歌山縣知事 川上 親 晴

- 一 試験場 伊都郡役所内
- 二 試験日及時間割

月 日	時 間 割	科目	時間
二月十五日	自午前八時 至午前十時	國語 講 談	國語 作 文
二月十六日	修身	算術	地 理
二月十七日	教育 教授法	歴 史	自午后〇時半 至午后一時半 國語 習字
			自午后二時 至午后三時半 體 操

○和歌山縣告示第十六號

本縣日高郡市南町大字里南ニ左記耕地整理組合ヲ設立セリ

明治四十三年二月十五日

和歌山縣知事 川上 親 晴

記

一設立年月日

明治四十三年一月十二日

一名 稱

日高郡印南町大字印南耕地整理組合

○ 辭 令

○明治四十三年一月十一日

願ニ依リ職務ヲ免ス

和歌山高等女學校助教諭心得

佐々木土代

○ 觀 象

自一月十日至一月十二日氣象

(和歌山測候所觀測)

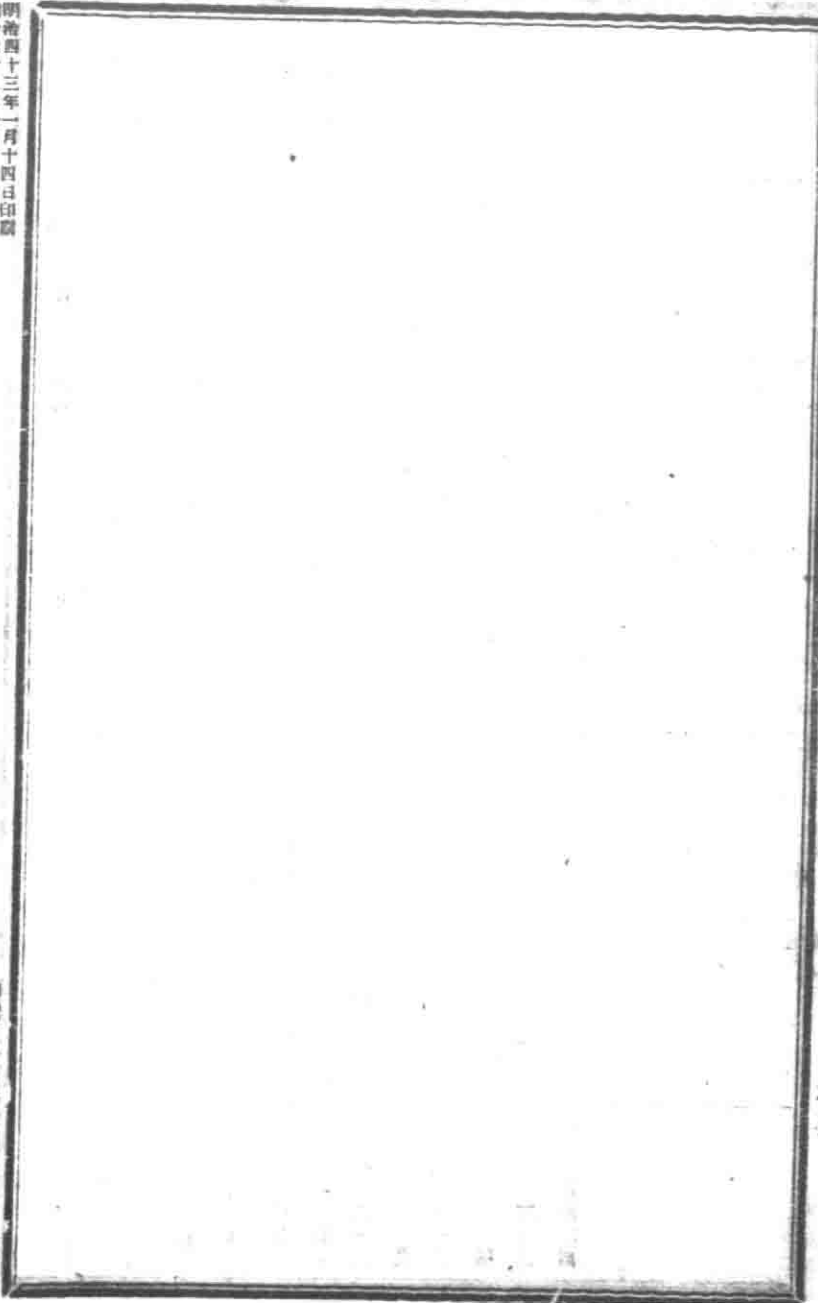
種 目	一 月 十 日		一 月 十 一 日		一 月 十 二 日	
	前 年	本 年	前 年	本 年	前 年	本 年
平均氣壓	七六六耗六	七六四耗四	七七〇耗〇	七六一耗六	七七〇耗二	七六一耗四
平均氣溫	四度三	七度三	一度八	四度七	一度五	七度五
最高氣溫	八度八	九度五	五度〇	五度二	八度八	一二度二
最低氣溫	一度五	四度七	〇度一	三度九	冰点下〇度六	四度四
最多風向	北東	北々東	北	北々東	北東	北
平均風力	二米六	六米五	六米三	三米〇	四米四	二米〇
天 氣	曇	曇	中晴微露	雨	中晴	晴
降水量			〇耗四	一三耗四		五耗六
記事雜象		正午前北々東ノ強風吹ク夕刻颯下全雨ノ警戒ヲ解除ス	早朝結霜并ニ微露正午前及後北々東ノ強風吹ク	終日降雨	午後日暈ヲ映ズ	曉間及夜間降雨

和歌山縣 續

第九四三號

明治四十三年一月十五日 (第三種郵便物認可)

十八



明治四十三年一月十四日印刷

明治四十三年一月十五日發行
(每月三號六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日發行)

和歌山縣知事官房

印刷所
和歌山市北條實町六番地
印刷部
七